

ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。環境・貧困・人権・平和など、私たちが直面するさまざまな問題に取り組み、豊かで公正な未来を創造するための「価値観」と「スキル」を育む、未来創造型の学びです。「国連持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）」が2005年からスタートし、世界各国で取り組まれています。

特集

2014年に向けた、私のアクションプラン



6月12日に開催された「ESD-J 全国ミーティング 2010」。総勢70名の参加者によるESDワールドカフェで、互いの想いに刺激を受け発信された「私のアクションプラン」。私たちは未来に向け何に取り組むべきなのでしょうか？

目次

- ◆ 特集 2014年に向けた、私のアクションプラン 2
- 2014年に向けて ESD-Jは何を目指すべきか 4
- ◆ 新体制となったESD-J 6
- ◆ トピックス：レスターブラウンシンポジウム報告 8



2014年に向けた、私のアクションプラン

6月12日(土)「ESD-J 全国ミーティング 2010」が開催され、総勢 70 名の参加者による ESD ワールドカフェが行われました。「地域に必要な学びあいの場とは」「学校と地域で ESD を進めるためには」という 2 つのテーマで対話が広がり、参加者からは、「ESD を進めるヒントがたくさん発見できた!」という喜びの声があがりました。

本レポートではそんな参加者たちの、互いの想いに刺激を受け発信された「2014 年に向けた私のアクションプラン」を紹介したいと思います。

ESD-J 事務局

人を巻き込む、つながる!

- 自分自身が ESD コーディネーターになれるだけの力量をつけて、先頭に立って ESD を支援する。(市民活動 F さん)
- 2014 年以降も一緒に歩く仲間をたくさん持つ。(市民活動 O さん)
- 私は現在学生、でもいずれは自ら大きなプロジェクトを提案し、多くの方に楽しんで参加していただけるようなプロジェクトを達成したい。(学生 S さん)
- より包括的な価値観にみんながステップアップするような交流の場づくりを更に進めていく。(大学関係 S さん)
- 「+ESD プロジェクト」で保健・医療・福祉に“かすっている”事例を拾い上げ、“ストーリー”として(医療福祉サイドで)共有する。(医療福祉関係 Y さん)

1 人の 100 歩より 100 人の 1 歩。今「ESD が必要!」と感じている人が多くの人を巻き込む。そうやって大きな力を生むことが ESD の 10 年の大きな目標です。

「ESD」をわかりやすく!

- メディア向けの明快な広報キットをつくる(メディアに端的に説明できないと拡がりが見えない)。(会社員 N さん)
- 「ESD」を表す、ひらがな言葉をひらめく。(市民活動 S さん)

ESD を世間に浸透するために、ESD を分かりやすく表現することを課題と感じ、トライしようとする人が結構います。一緒にがんばりましょう。

学校現場で実践!

未来の子どもたちへ何ができるのか、これからもっともっと学校の先生と地域で突き詰めたいですね。

- 学ぶ意欲・意思・技能にささえられた、子どもたちの「確かな学力」を育むために、ESD 教材を開発・充実していきたい。そのことが ESD を学校教育活動にしみこませていくことになるから。(学校関係 S さん)
- 「ESD」を知らない先生や保護者、市民をなくし、子どもと大人の行動に少しでも具体的な変化をおこす。(学校関係 C さん)
- 子どもが五感で感じ「自ら学びたい」と思う心(健康な状態)を育てたい。(市民活動 S さん)
- 自分の働く教育現場で、子どもや地域の実態に合う活動を考えていきたい。(学校関係 Y さん)

ESD が持続するしくみづくり

地域ですすめる ESD 自体の持続可能性のためのしくみづくりについても、地域実践者とともに取り組みたいです。

- 地域の中に補助金がなくても持続できる ESD のしくみと雇用を確立させたい。(市民活動 I さん)
- ESD のプロジェクトやカリキュラムを住民とともにつくる。(市民活動 I さん)
- 自ずと社会(地域)貢献できるしくみをつくる。(市民活動 S さん)
- 今年 8 月に起業し、日本の社会問題に取り組んでいく。ESD のよさをもっと学んで自組織に取り込んでいき、人や社会に貢献していく。(大学関係 O さん)



ワールドカフェとは？

1995 年ごろから組織変革の現場で、カフェや喫煙所での気軽な雰囲気の中で重要なテーマを話してみると、形式ばった会議の場よりもよいアイデアが生まれることをヒントに生み出されました。ホストが出す問いをきっかけに、参加するみなさん同士が席替えをしながら対話をします。会話をヒントにアイデアを拡げ、つなげ、収穫につなげていく手法です。

日本の地域と世界の地域、共通の課題があり、共通の学びの方法があるそうです。その点をシェアして、お互いが力とすることも ESD の 10 年が国際プロジェクトである価値ですね。

国際社会とつながって！

- アジアの市民社会の ESD ネットワークについて検討する。(大学関係 S さん)
- 日本の地域と途上国の具体的な地域とをつなげるような活動がしたい。(大学関係 K さん)

個人レベルで実践！

- 自分のライフワークの中で 20% を仕事とは異なる持続可能な社会づくりのために使います。(大学関係 F さん)

プロボノという社会との関わり方も話題になっています。多くの人が持っているスキルを社会に生かす。そんな社会のためにこそ ESD はあるんだと改めて実感しました。

その他

- これまでやり続けてきたことを続ける！(大学関係 S さん)
- 学校・地域・行政が ESD 的に変革していくことを期待する。(市民 M さん)

納得です。

地域や立場、分野は異なっても ESD への思いはみなさん熱い。大切なことは、「ESD 的な学びあいが必要！」と思っている人がどれだけ行動できるか。中間年を過ぎた今だからこそ、あらためて問い直したいと思います。あなたの 2014 年に向けたアクションプランは何ですか？

ESD-J はこれからも、地域の声に耳を傾け、それらを応援するための場づくり、情報収集と分析、提言・提案を進めていきます（詳細は次ページへ）。

学生ボランティア

うららのワールドカフェ体験記

こんにちは！ESD-J 学生ボランティアの清水麗（しみずうらら）です。先日、初めて全国ミーティングに参加させていただきました。結構緊張していました。知識も経験も少ない私が他の参加者の方々ともに対話できるのかと……。でも行って見て、本当に有意義な時間を過ごせました！参加者の方々は熱意と魅力にあふれ、やさしくておもしろい方ばかり。対話は休憩時間も席を離れることができないほど盛り上がりました。NGO、企業、学校、行政…一人ひとり異なる視点で異なる価値観を持ち、異なる意見を出し合います。それぞれがお互いの意見を尊重し、よりよい ESD に向けて対話を積み重ねていく。私にとっても ESD の可能性が大きく広がった 1 日でした！



ESD-Jの中期戦略（中間報告）より

ESD-Jは、2009年1月に「ESD推進のための14の提言」を取りまとめ、公表しました。そして昨年度、2014年に向け優先的に力を注ぐべき提言とその実現に向けた議論を進めました。

会員を対象に行ったアンケートでは93件の回答を得、重点テーマとして、「学校分野におけるESDの強化」（1位・43票）、「ESD普及に向けた広報戦略策定」（2位・28票）、「学習コーディネーターの配置」（3位・24票）などに関心が高いことが確認されました。また、ESD-Jへ期待する役割は、「政府等への政策提言」（1位・54票）、「地域のESD活動・ネットワークづくりの支援」（2位・52票）が群を抜いていることがわかりました。

ここで紹介するESD-J中期戦略（中間報告）は、そのような会員の声も踏まえ、ESD-J理事が4回のミーティングを経て取りまとめたものです。2010年の夏から秋にかけ、さらに会員の皆さんと議論する場を設け、12月までには中期戦略として確定していく予定です。

ESD-Jの中期戦略（中間報告）より抜粋

ESD-Jが目指すもの

◆持続可能な社会・地域を担う「人づくり」 実践者が連携し、社会を変えるムーブメントを起こす

持続可能な社会・地域づくりに向けた活動や、そのための「人づくり」はすでに各地でたくさん行われています。しかし、それらの活動の多くは個別に進められており、多くの人々の行動や習慣、そして社会そのものを持続可能なものへ変えるところまでは達していません。

そのような取り組みの成果が社会全体に広がり、社会を変えるほどのインパクトを生むためには、実践者が、分野横断、セクター横断でさらにつながりを深め、協働を促進するためのしくみやムーブメントが必要です。ESD-Jは、そのようなしくみやムーブメントを全国的に進めていくことを目指します。

2014年の目標

◆持続可能な社会・地域を担う「人づくり」を支える“しくみ”の構築

- －学校教育でESD的な学びが展開されるための環境（支援体制、教員養成、教員研修等）の構築
- －地域のコーディネーターが活躍できる環境や、実践者の交流・学びあいの場を構築
- －ESD実践を支援するツール、ノウハウ、カリキュラム、リソースに誰もがアクセスできる環境の構築
- －アジア規模、世界規模でのESDの学びあい、相互支援に向けて取り組める環境の構築
- －上記を推進するための、地域レベル、全国レベルでの多様な主体の協働によるESD推進体制の構築

第3期の活動方針

◆「14の政策提言」をさまざまな主体と連携・協働し、できることから具現化

中期計画の第3期（2009-2011）は、「14の政策提言」を会員や多様な分野の関係者とブラッシュアップし、さまざまな主体と連携・協働しながら、できることから具現化していく期間とします。また、各地で取り組まれているESDの実践や研修から、効果的な方法やしくみを導き出し、実践者への提案や政策立案につなげます。

* ESD-J 14の政策提言

ESD-Jは2009年1月、「“学び”から未来を創造する社会へ ESD-J 14の政策提言」をとりまとめました。提言にあたっては、ウェブサイトでの意見募集や地域ワークショップなどを行い、約180名の全国のESD実践者の声が反映されています。

www.esd-j.org/j/documents/2009seisakuteigen.pdf



目指すべきか？

2010 年度の重点的な活動

中期戦略（中間報告）を踏まえ、今年度は以下の3点を重点ターゲットとして取り組みつつ、国際的な貢献への道筋も模索していきます。

- ① ESD に取り組む組織や人、ESD を推進する組織がつながるインフラの構築
- ② ESD 推進を担うコーディネーターの育成と社会化
- ③ 学校教育における ESD を推進するしくみづくり

「ESD ビジョン 2014」とりまとめ

2009 年度の議論をふまえ、ESD の 10 年後半における ESD-J の役割を明らかにし、また 2014 年の達成したいビジョンを明らかにし、戦略を立てていきます。

→ ● 「ESD ビジョン 2014」の発行

ESD × 生物多様性

生物多様性という側面から「地域を担う人づくり」のノウハウを切り出すプロジェクト。「生物の命」と「人の暮らし」が持続するための活動について調査し、そのベースとなる「人づくり（＝ESD）」について分析し、発信していきます。

学校と地域をつなぐ ESD

学校と地域による ESD の実践とユネスコスクールの普及に向けて、教育委員会と連携し、教員や教育コーディネーターの方々と研修会・研究会を実施します。また、そこで培った学校の ESD 実践の課題やノウハウを広く発信していきます。

- ● 生物多様性/COP10へアピール
- ● ESDの10年円卓会議、社会的責任(SR)円卓会議にて提案
- ● 政府、議員、マスコミ向け情報発信

コーディネーター育成

ESD を地域で推進するコーディネーターの育成研修をモデル的に実施するとともに、その資質、育成方法などについて調査・研究・検討を深め、「ESD コーディネーター育成に関するガイドライン」として広く発信していきます。

ESD プラットフォームの構築（＋ ESD プロジェクト）

多様な分野の ESD 活動を可視化し、各地域で交流や学びあい、ESD 活動の支援者（助成団体、企業など）との出会いの機会を生み出す「ESD プラットフォーム」を官民の協働でスタートさせます。

ESD アジアネットワーク強化

アジア 5 カ国の NGO とネットワークの有効性・意義についてのワークショップを実施します。また、その成果を基に、ネットワーク設立・運営に向けた国際協力の必要性や支援のあり方について検討する公開フォーラムを開催します。

新体制となった ESD-J

ESD-Jは7月から新理事体制になりました。今回の改選で理事数は12名から14名になり、地域担当理事という体制がスタート。新代表理事と、今回新たに加わった理事よりご挨拶申し上げます。

社会全体が変革の必要性を痛感し始めている今こそ

ESD-Jはこれまで、“持続可能・開発・教育”の解釈の議論に始まり、その推進に様々な試みを行いながら、みなさまとともに多くの活動に取り組んでまいりました。ESDの10年も残すところあと5年、ESDを取り巻く社会認識にも僅かずつではありますが、変化の兆しがみられます。

ESD-Jは先ごろの参院選挙にあたり、各政党に持続可能な社会づくりとそれに関する教育（ESD）についてアンケートを行いました。その回答では、政権公約に「ESD」を具体的に記述した党、経済成長と関連させた「持続可能な社会」像を示す党、「教育によってESDを推進することが急務」とする党などが見受けられ、多くの政党に持続可能な社会づくりとESDの重要性は浸透してきたことが伺えます（詳細はウェブサイトへ掲載）。

また、先頃のGRI^(*)グローバルコンファレンスでは、2015年までにすべてのOECD諸国と、急成長している新興国の大企業や中企業に対してESGレポート^(**)の発行を義務づけることが提言されたそうです。ESD-Jとしても、持続可能な社会構築に向けて果たすべき役割に新たな変革が必要との観点から、そのビジョンや基本方針を再検討し、具体的な実現につなぐ方策が急がれます。更にはESDの10年最終年（2014）後の、ESDを支える“しくみ”を検討し、広く共有を図りたいと願っております。

「よりよい社会をつくるためのオルタナティブな学び」をメインストリームにするこの運動のゴールはまだ先になりそうです。しかし、社会全体が変革の必要性を痛感し始めている今こそ、官民が協力してしくみづくりやムーブメントづくりに取り組む必要があります。ESD-Jが果たすべき役割は大きいと考えております。

みなさま方、力をあわせてESDの推進に努めてまいりましょう。今後ともご支援、ご教示を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



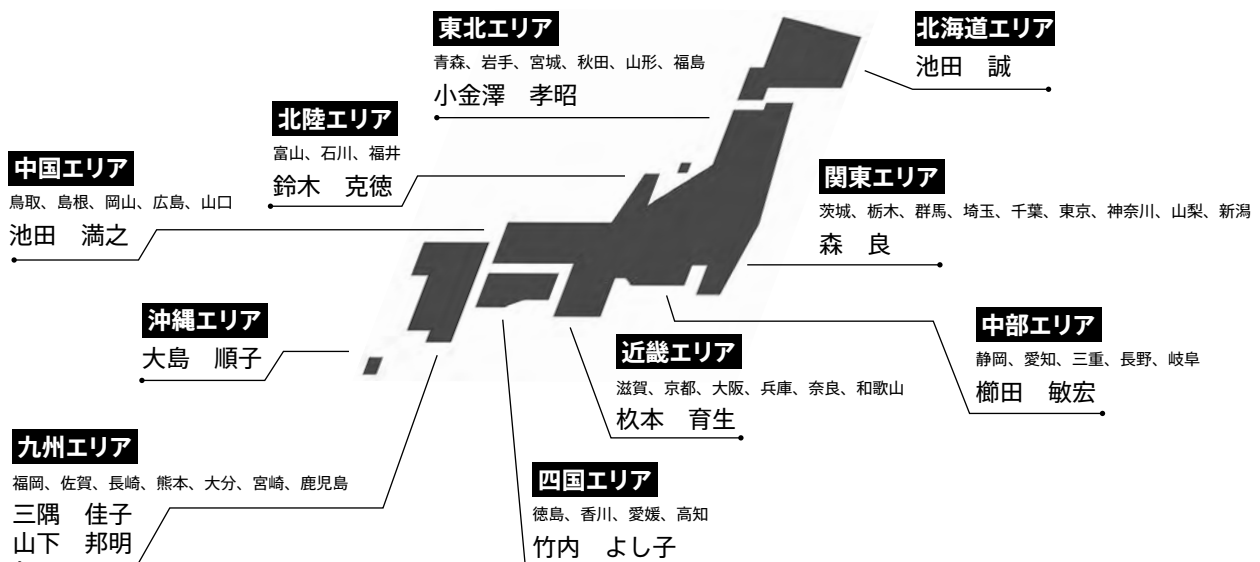
認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議
代表理事 重 政子

*1 GRI (Global Reporting Initiative) : サステナビリティレポートのガイドラインを策定する国際ネットワーク組織

*2 ESGレポート : サステナビリティレポート。ESGは経済・社会・ガバナンスの頭文字

地域の会員交流の核となる地域担当理事

ESDを推進していく上で、地域の実践者や研究者との連携はとても大切です。ESD-Jは今年度から、地域の方々とのつながりをより強くしていくために、全国10ブロックの地域担当理事体制を作りました。地域担当理事は、地域ミーティングの開催などを通じて、会員同士の交流を促進しつつ、ESDの新しい仲間、理解者を増やす役割を担います。ESDのネットワークを広げたい、地域で交流したい!と思っているみなさん、まずは地域担当理事とつながってください。



北海道から持続可能なライフスタイルを

財団法人北海道国際交流センター事務局長、大沼マイルストーン 22 代表 池田 誠



「引き寄せの法則」という言葉がある。願えば叶うということを経験として捉えたものだが、確かに願えば必ず実現してゆくものだと実感している。サラリーマンから、自給自足のコミュニティで働き、国際交流に携わっているが、自分のやりたいことをやってきた。そう、持続可能な生活とはこれまでの枠にとらわれない自由な思考の上にごそあるものだと思うのだ。今年から ESD-J の理事になって、まさに引き寄せの法則のように夢を描いていきたい。この広い大地の北海道から、それぞれの自分らしいライフスタイルの提案をしてゆく。ESD-J にワクワクしたエネルギーをおこしていきたい。

東北地方に ESD のネットワークを！

宮城教育大学教育学部教授、仙台いくね研究会代表世話人 小金澤 孝昭



私の所属する宮城教育大学や仙台いくね研究会も構成メンバーになっている仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員会（国連大学への登録名称：仙台広域圏 RCE）は、宮城県内の ESD 活動のネットワークづくりを行っている。現在は 4 つの地域ネットワーク（気仙沼地域 ESD, 仙台地域 ESD = FEEL 仙台、大崎田尻 ESD, 白石・七ヶ宿 ESD）と 2 大学（宮城教育大、東北大）とのネットワークだが、この ESD のネットワークを EPO 東北と協力しながら東北地方の各地で ESD を推進している団体や地域ネットワークと連携していきたい。

ESD は対話参加体験の場からはじまる

ビッグバン・ハウス株式会社 吉澤 卓



愛・地球博「地球市民村」や、昨年行われた横浜の「開国博 Y150 市民創発事業」などで、イベントを対話や参加、体験の場として、社会参画や主体性の涵養、セクター間の連携強化の機会として考え活動してきました。2014 年に実施予定の ESD 総括の場のあり方の検討や、その場にネットワークのみなさんがどう関わるのか、が目下の関心事です。参加型の場づくりのノウハウやネットワークを活かし、ESD-J が主催する情報交換や学びあいの機会をサポートすることや、情報 PT 担当として、事務局発信だけでなく、会員のみなさん、関係者のみなさんが、多様な形で自ら発信するための手法展開などに取り組んでいきます。

学校教育に ESD を導入しよう！

EPO 中部 ESD 中部イニシアティブプロジェクト、愛知県総合教育センター 榎田 敏宏



現代社会は、課題山積です。これから日本は、そして世界はどうなっていくのでしょうか？ ESD は、そんな暗い未来を切り拓いていくための力をつけるとても重要な教育だと思います。私は、ESD は、小さな課題解決から得られる成功体験の積み重ねがとても大事だと考えます。

ESD-J が認定 NPO 法人に認定されました

2010 年 7 月 16 日、ESD-J は国税庁より「認定 NPO 法人」として認定されました。認定 NPO 法人とは、NPO 法人のうち、その運営組織及び事業活動が適正であること並びに公益の増進に資することについて一定の要件を満たすものとして、国税庁長官の認定を受けた法人のことをいいます。

ESD-J が認定 NPO 法人であることで、みなさんからいただくご寄付は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。

そのことにより、自己有用感が高められ、大きな困難に立ち向かう力がつくのではないのでしょうか？ そんな、ESD を東海地区、そして、日本全国の学校教育にどんどん広められたらなあと思います。理事として力不足ですが、精一杯務めますのでよろしくお願いいたします。

連携・協働で ESD を一人ひとりのものに

北九州 ESD 協議会 三隅 佳子



世界中の人びと、将来世代の人びとが安心して暮らせる社会づくりを目標とする ESD の活動に共感しています。北九州から九州へと地域での活動の輪を広げるよう努力することがモットーです。そのために分野横断、セクター横断で協働のしくみづくりを進めたいと思います。学校教育分野での ESD の普及が九州では弱いので、何とか強化する方法を考えること、さらに地域、市町村での ESD の理解と行動の拡充を目指します。その一歩として、今年から北九州 ESD 協議会では、各区の市民センターを中心に ESD 推進のモデルづくりを始めました。

よろしくお願いします

九州大学言語文化研究院教授、社団法人サルボダヤ Japan 代表理事 山下 邦明



今回新しく理事になりました山下邦明です。三隅さんと二人共同（協働）して、九州地区を担当しますのでよろしくお願いいたします。ESD を学校に普及するためのユネスコスクールを支援する大学間ネットワーク（12 大学が加盟）にも関わっています。ESD-J のメンバー団体や個人が有している豊富なリソースを、これらユネスコスクールの活動に資することができるようがんばりたいと思っています。またユネスコ本部事務局での勤務経験を生かして、アジア・太平洋の ESD・NGO ネットワークづくりに寄与したいと思います。

初心に帰って、ESD を進める仕組を追求します

ESD-J 村上 千里



「ESD の 10 年があってよかったね」、そう言って 2014 年を迎えられるためには、どんな具体的な成果を生み出せるとよいのでしょうか？ 「国連婦人の 10 年」が男女雇用機会均等法を生み出したように、「ESD の 10 年」でも、環境や人権や貧困の問題を解決するオルタナティブな学びを主流化するしくみやムーブメントを生み出したい、これが私の ESD-J に参画する動機でした。日々の仕事に追われ、必要な仕組を探り、深め、政策にしていく取組みはなかなか進んでいませんが、これこそがネットワーク組織の役割。ESD の 10 年後半は、よりシャープに政策実現に向けた仕事に注力していきたいと思っています。

継続理事

池田 満之
大島 順子
重 政子
松本 育生
鈴木 克徳
竹内 よし子
森 良

岡山ユネスコ協会
社団法人日本ネイチャーゲーム協会
NPO 法人自然体験活動推進協議会
NPO 法人環境市民
金沢大学
NPO 法人えひめグローバルネットワーク
NPO 法人エコ・コミュニケーションセンター

低炭素社会に向けて、社会が、人が、変わるとき

5月27日、気候変動、エネルギー、食料など、地球規模の環境問題に警鐘を鳴らし続ける米国の環境科学者レスター・ブラウンさんを迎え、賛助会員の日能研さんとともにシンポジウムを開催しました。

基調講演でレスターさんは2020年までに世界の二酸化炭素排出量を80%削減する必要があるとし、世界各地で始まっている再生可能エネルギーへの転換の取組みや、自動車の減少、火力発電所の閉鎖など、米国での最近の動向を紹介しながら、それが実現可能な未来であると主張しました。

シンポジウムの後半は、アサヒビール株式会社・社会環境推進部長の竹田義信さん、NPO法人エコプラス代表の高野孝子さんが加わったトークセッション。低炭素社会に向けた変革をどうやって起こしていくのか、人や社会が変わるためには何が必要かについて話し合われました。

興味深かったのは高野さんの「レスターさんが今の仕事に関わったきっかけは？ また、竹田さんは環境の仕事に関わって、ご自身に変化はありましたか？」という質問。レスターさんは実家が農家だったこと、学生時代インドで圧倒的な貧困を目にしたこと、そして子どもの頃にたくさん読んだ伝記や物語の影響を挙げました。「素晴らしい人は皆、その時代の大きな社会問題に取り組んでいる、今の時代の問題は環境問題だろうと使命を感じた。そして無人島に流されたある家族の物語を読み、工夫次第で人は何でもできることを学んだことが大きく影響している」のだそうです。

竹田さんが社会に働きかけることに目覚めたのは、現職を担当する前に社会貢献プログラムに参加したときでした。「知的障害を持った子どもたちを両親から預かり北海道旅行をする活動でしたが、東京に戻ってきたとき、子どもたちのご両親がものすごく喜んでくれてね」。この体験が、社会性をもった活動への大きな動機となったようです。「だから、社会貢献や環境活動を企画する立場になってからは、どうやって社員に社会的な活動に参加してもらうかを意識しています」と、今社会が直面している様々な問題に社員が直接触れ、考え、会社以外のつながりを社会と結んでいくことが企業にとっても大切だと考えられていました。

高野さんは、直接体験の大切さがお二人共通のポイントだと共感。エコプラスの活動であるミクロネシアでの自然&生活体験プログラムで、学生たちが見せる変化の紹介も印象的でした。「自給自足の可能なところに行って、薪を集め、水を汲み、その村の色々な知識を教えてもらいながら暮らします。すると、今まですごく貧しい人たちだと思っていた見方がころっと180度変わるんですね。どっちが豊かなんだろうって」。

今の社会を変えていくには、誰もが「プランB」=もうひとつの道を考えられるようになることが大切だと思います。そのためのカギが、さまざまな「直接体験」にあることを確信したシンポジウムでした。

(報告：村上千里 ESD-J)



4月～6月の活動

- 4月8日 ESD 関係機関情報交換会合 参加
- 4月13日 NGO・外務省定期協議会 参加
- 4月14日 SR 円卓会議「人を育む」ワーキング準備会合 参加
- 4月25日 「ESD × 生物多様性」中国ワークショップ in 岡山開催
- 5月12日 天城中学校教員研修 講師
- 5月15日 「ESD × 生物多様性」九州ワークショップ in 鹿児島開催
- 5月19日 民主党議員政策研究会講演
- 5月27日 レスター・ブラウン シンポジウム 共催
- 5月29日 「ESD × 生物多様性」東北ワークショップ in 宮城開催
- 6月5日 CBD 市民ネット「生物多様性×開発」作業部会 参加
- 6月7日 「ESD × 生物多様性」分析・検討ワーキング 開催
- 6月9日 ESD レポート 23 号 編集会議 開催
- 6月12日 ESD-J 全国ミーティング 2010 開催
- 6月13日 「ESD × 生物多様性」地域担当者会議 開催
- 6月13日 地域担当理事ミーティング 開催
- 6月18日 ESD-J 理事会 開催
- 6月29日 CBD 市民ネット「生物多様性×開発」作業部会 参加



編集後記

今回、全国ミーティング(6月12日)に参加し、初めて記事を書きました。学生の私は他の学生が予想以上に多く参加していることに驚き、ますます活動の幅を広げられるような気がして勇気づけられました。今後は他の団体の活動に参加させていただいたり広報活動に力を入れたりして、多くの学生と交流できる機会を作りたいと思います。さらに、小中学生、高校生ともESDをテーマに交流することが私の目標です。(ESD-J ボランティア 立教大学 清水麗)

認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

http://www.esd-j.org/ e-mail: admin@esd-j.org

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F
TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554

● 会員募集中：正会員(10,000円)、準会員(3,000円) 詳しくはHPをご覧ください ●



発行：認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 編集：ESD-J情報共有プロジェクトチーム レイアウト：河村久美



この印刷物は、適切に管理された森林の認証木材から作られた紙と、フードマイレージに配慮し、米ぬか油を使用したライスインキで印刷しています。